

身体部分に関わる日本語の諺分析

意味論からの一考察

カルティカ サヴィトリ

0342027

マラナターキリスト大学

文学部日本語学科

バンドン

2009

序論

人間は生活を営む際において、コミュニケーションの手段として言語というものをを使うのである。コミュニケーションを際には、簡潔な表現婉曲表現、比喩表現を使うのである。比喩表現の一つに諺というものがある。それぞれの言語には必ず諺がある。それぞれの言語の諺は地理的、風俗習慣により。その表現法に違いがあることは言うまでもつよい。日本語には身体部分を使った諺が多く見受けられる。それその諺がいかなる意味を持ち、いかなる理由でそのような。比喩表現を使うのかというのか本論文の執筆の目的である。

本論

分析を進める前に、まず諺が何であるかを調べてみることにする。広辞苑(1991)に古くから人々に言いならわされた言葉。教訓。風刺等の意を寓した短句や秀句と、ある。つまり諺は間接的に人にある行動をとるあるいは、とらないように。まに人のとった行動を風刺する比喩表現である。

日本語辞典(1998)では、諺は俚諺、格言、慣用句の蜜に分けられる次に身体部分を作った諺の何をいくつか学ばせて分析してみる。

1. 口あれば食って通る肩あれば着て通る

人はなんとかかんとか暮していけものだと言う意味である。人はご飯も食べるし、服も着るのである。いかに困難な生活を送っていても、ご飯ぐらいは食べることができる。最低の服も着ることができるという。

2. 青葉は目の薬

鮮やかなあおばの色には、目の疲れを回復させる効き目がある。目の作った仕事を続けると、目が疲れることになるのである。目が疲れには外に出て、練を見るようにという。

3. 赤子の手ひねる

抵抗する後からのない赤ん坊の手をひねるように、たやすくできると言うたとえである。

この諺はものことが簡単に仕上げることができるという比喻表現である。

赤子の子はやわらく、抵抗する力がないので、簡単にひねることができるという意味から転じにものである。

足耳の身体部分を作った諺はまたあるがここでは上記の三つの例だけとり学べだ。

結論

日本語の諺には身体部分を使ったものがたくさんある。

それぞれの身体部分にはそれぞれ機能がありその機能に合わせて作った諺がたくさん。

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR	i
DAFTAR ISI	v
BAB I Pendahuluan.....	1
1.1 Latar Belakang Masalah	1
1.2 Rumusan Masalah	5
1.3 Tujuan Penelitian	6
1.4 Metode Penelitian dan Teknik Kajian.....	6
1.5 Organisasi Penulisan	8
BAB II Kajian Teori.....	10
2.1 Semantik	10
2.2.1 Segitiga Makna	12
2.2 Kotowaza	15
2.3 Arti Bagian Tubuh	21
2.3.1 Mulut/ kuchi.....	21
2.3.2 Mata/ me	22
2.3.3 Kaki/ ashi	23
2.3.4 Telinga/ mimi.....	24
2.3.5 Tangan/te.....	26
BAB III Analisis Kotowaza.....	28
3.1 Mulut/ kuchi.....	28
3.2 Mata/ me	37

3.3 Kaki/ ashi	43
3.4 Telinga/ mimi.....	49
3.5 Tangan/te	53

BAB IV KESIMPULAN	58
--------------------------------	-----------

DAFTAR PUSTAKA

DAFTAR KAMUS

LAMPIRAN DATA

LAMPIRAN II KORPUS

SINOPSIS

RIWAYAT HIDUP PENULIS